

科目ナンバリング		U-LAS23 10004 SJ48							
授業科目名 <英訳>	中国語 I B (演習) C1201,C1202,C1203, C1204,C1205,C1206,C1207,C1208,C1209, C1210,C1211,C1212,C1213,C1214,C1215, C1216,C1217,C1218,C1219,C1220,C1221, C1222,C1223,C1224,C1225,C1226,C1227 Elementary Chinese B				担当者所属 職名・氏名		国際高等教育院 准教授 劉 愛群 人間・環境学研究科 准教授 津守 陽 人間・環境学研究科 非常勤講師 黄 明月 人間・環境学研究科 教授 小野寺 史郎 非常勤講師 成 高雅 非常勤講師 姜 若冰 非常勤講師 王 桂紅 非常勤講師 張 黎 非常勤講師 林 淑美 非常勤講師 孫 文秀 非常勤講師 殷 文怡 人間・環境学研究科 教授 松江 崇 非常勤講師 許 燕華 人間・環境学研究科 准教授 二宮 美那子 人文科学研究所 助教 李 媛 非常勤講師 林 麗てい		
	群	外国語科目群		分野(分類)		使用言語			日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	月3/月4/火2/火3/火4/ 火5/水4/木1/木2/木3/ 木4/金2/金3/金5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>本授業は、原則として中国語IA(演習)の履修経験を有する学生を対象にしたものであり、ある程度の長さを持ったスキットと文法事項とを段階的に学びながら、読む、書く、聞く、話すといった能力を身につけてゆく。この授業ではIA(演習)で修得した能力を基礎に、中国語の聞き取りと口頭表現の能力を伸ばしてゆくことを目的とし、文法の授業と連携したかたちで、授業をすすめる。</p>									
【到達目標】									
<p>中国語の発音体系を正確に身につけた上で、中国語の聞き取り能力と口頭による表現能力を身につける。北京などを舞台としたスキットを題材にしつつ、広く中国の文化に対する理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>この講義はフィードバック(方法は別途連絡)を含む全15回で行う。 後期は本文編第十課より第二十二課までを学ぶ。本授業で使用する教科書は、一年間だけ学ぶ場合でも相当高いレベルまで身につけられるように編纂されており、後期の実習の授業では、ある程度まとまった内容をもった文章を話し、また聞くことができるようになることをめざす。原則として1回の授業で1課を学習する。 本授業は、所定の文法の授業と連携して行われるため、かならずセットで履修しなければならない。この授業だけの履修は原則として認められない。なお、Web上にも教材や練習問題の音声を置き、履修生には24時間自由なアクセスを認め、その自学自習を支援する。各回において学ぶ内容(文法事項)は次のようである。授業では、これらの文法事項を用いた文や対話の聞き取りを行い、その内容に対する質問に中国語で答える練習をも行う。</p>									
第1回 第十課、「数詞と量詞など」「結果補語」「名詞述語文」 第2回 第十一課(前半)、「動作の回数・持続時間」「“he/gen...yiyang”」「“是...的”構文」									

- 第3回 第十一課（後半）、「様態補語」「“zheme/name” + 形容詞」
第4回 第十二課、「“把”構文」「助動詞“会”“能”“可以”」「可能補語」「“要是/如是...就...”」
第5回 第十三課、「“一点儿”」「“又...又...”」「単純方向補語」「疑問代詞“zenme”」
第6回 第十四課、「強調の文」「“guanyu” + 名詞」「使役構文“rang”“叫”“使”」「動詞の重ね型」
第7回 第十五課、「存現文」「複合方向補語」「“給”のさまざまな用法」「禁止の表現」
第8回 第十六課、「動作の持続 動詞 + “着”」「受け身構文“被”（rang/叫）」「“lian...都（/也）”」「“越...越...”」
第9回 第十七課、「“不但...而且...”」「“一...就...”」「“像/好像...yiyang”」
第10回 第十八課、「動詞 + “在”」「“会”²」「“gai”」「よく使われる副詞」
第11回 第十九課、「“除了...（以外/之外）”」「“不管...都...”」「“suiran...但是...”」
第12回 第二十課、「結果補語（補充）」「動詞 + “起来”と方向補語の派生用法」「“于是”などの接続詞」
第13回 第二十一課、「疑問詞の呼応構文」「助動詞“得”」「兼語文」「“有”を用いる連動文」
第14回 第二十二課、「“既...又...”」「“不...不...”」「“却”」「“果然”」
《期末テスト》
第15回 フィードバック

【履修要件】

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

【成績評価の方法・観点】

原則として定期試験80%、平常点20%で評価する。詳細については授業の最初の時間に説明する。中国語の正しい発音の修得、および基本的な語彙・文型の聞き取り能力とそれらを用いた表現能力の修得とが評価の基準となる。

【教科書】

道坂昭廣 他『中国語の世界 北京・2025』（大地社）

【参考書等】

（参考書）
詳細な学習方法や、辞書及び参考書については、最初の授業や授業の中で紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

Web上に教材や練習問題の音声を置く。24時間自由にアクセスできるので、必ず授業の前に、音声を聞くとともに文法事項について目を通しておくこと。また、練習問題が宿題となることもある。必ず復習とともに練習問題等の課題を行うこと。

【その他（オフィスアワー等）】

最初の授業において紹介する。